

戦争法廃止・安倍内閣退陣 3・19 集会

戦争法の強行採決から半年がたった3月19日、東京・日比谷野外音楽堂で戦争法廃止・安倍内閣退陣を求める集会が開かれた。あいにくの小雨模様にもかかわらず、5,600人集まり、会場外にも人があふれた。

開会挨拶にたった、1000人委員会の福山真劫さんは、「私たちは2015年で多くのことを学んだ。市民が、若者が、ママの会が、学者が、市民団体が、平和・護憲団体が、労働団体が、野党が、連帯してたたかえば安倍政権を揺さ振ることができる。安倍政権を追いつめることができる。2016年、私たちは、ひとつには市民運動で安倍政権を包囲すること。もうひとつは、参議院選挙や衆議院選挙で野党に勝利をさせることだ。野党が連携し我々が支えて頑張ることだ」と述べた。

さらには、「戦争法廃止署名は東京だけで500万筆を集約、2000万筆を集めるため、ひきつづき頑張ろう」と呼びかけた。

また、3月7日付け読売新聞の世論調査の結果について、①安保法制を決めたことを評価するが38%、評価しないが47%、②参議院選挙で自公過半数が良いと思うが43%、良いと思わないが45%、③野党が候補者を統一するのが良いと思うが45%、良いと思わないが41%、④憲法改正を評価する37%、評価しないが52%と、一つひとつ数字が報告されるたびに大きな拍手が起こり、「これが世論、野党に頑張ってもらおう、私たちもたたかう野党を全面的に支援しよう」挨拶を結ぶと、歓声とひととき大きな拍手が巻き起こった。

政党を代表して挨拶した民主党の枝野幹事長は、「国民にとって必要なのは安倍政権の三本の矢ではなく、いま打たなければならない三本の矢は、ひとつは立憲主義の危機、ふたつには民主主義の危機、そして国民生活の危機、この三つの危機を打ち落とす矢こそが必要だ。みなさんの怒りの声を、危機感をさらに大きな輪として広げ、共にたたかおう」と訴えた。

つづいて共産党の「来るべき選挙は、戦争法の廃止なのか、それとも解釈改憲と明文改憲でまぎれもない戦争国家への道を進むのかが問われている。絶対に負けるわけにはいかない」と訴えた。

また、戦争法に反対する高校生のグループ「ティーンズソウル」16歳の女子生徒は、「私たちが家族や友人に安保法や安倍政権の危険さを伝えていくことが大切だと思う」「私が大人になっても、戦争がなく、未来の子どもたちが希望を持てる社会であるために、主権者として行動していきたい。政党や党派を超え安保法制の廃止と安倍政権の退陣を求めていこう」と呼びかけた。

(HT)